

短 報

福島県郡山市湖南町に分布する中新統大久保層から産する化石について

猪瀬弘瑛*・福島県立博物館友の会化石鉱物探検隊**

1. はじめに

福島県中通りの郡山市西部には緑色火山礫凝灰岩・緑色～赤紫色流紋岩質凝灰岩・緑色中粒砂岩を主体とする大久保層が分布している（北村ほか, 1965）。福島県立博物館友の会化石鉱物探検隊は、これまで福島県内の地質を継続的に調査してきた。同探検隊が本層の分布域を探検していたところ化石の密集部を発見し、福島県立博物館の猪瀬とともに調査した。

大久保層の化石は小泉（1963）と北村ほか（1965）により、論文の本文中に学名のみが記述されてきた。しかし、これらの論文は本層の地質学的位置づけに主眼を置いたものであり、古生物学的検討は十分に行われていない。そこで本稿では、大久保層の代表的な化石を図示するとともに産状について報告することとした。

2. 地質概略

大久保層は小泉（1963）により、郡山市逢瀬町大久保南西を流れる逢瀬川を模式地として命名された。主に下位の檜山層を整合に覆い、上位の堀口層に整合で覆われ、全層厚は500m以上とされている。小泉（1963）は高嶺山流紋岩質凝灰岩部層を提唱しているが、北村ほか（1965）では大久保層の一岩相を代表するものに過ぎないとしている。小泉（1963）

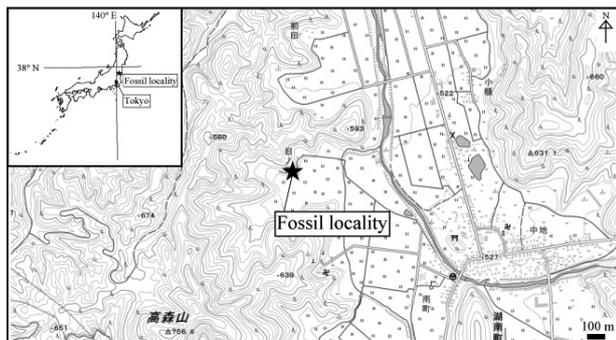


図1. 化石産出地（福島県郡山市湖南町舟津日ノ岡）の位置図。地理院地図使用。

Figure 1. Fossil locality. Topographic map adopted from Geographical Survey Institute, Japan.

と北村ほか（1965）では、本層中部から *Chlamys arakawai*, *Chlamys* sp., *Lima yagenensis*, *Lima* sp.（本稿中では *Lima* 属でなく *Acesta* 属）, *Nuttalia* sp. を報告している。年代については、火山活動の特性や化石から中期中新世とされている（小泉, 1963）。

3. 発見した化石とその産状

化石を発見したのは、福島県郡山市湖南町舟津日ノ岡にある鳥居近くの露頭の凝灰岩からである（図1）。この露頭は約3mの厚さの淡緑色（風化すると茶褐色）中粒～粗粒の塊状凝灰岩の上位に1.4mの厚さの塊状の灰白色細粒砂岩が重なっている。凝灰岩と砂岩の境界は観察できなかった。凝灰岩には小～大礫サイズの軽石が含まれ、二枚貝化石の多くは離弁の状態に含まれている。破片化した個体も少量含まれるが、殻表面はあまり摩耗していない。化石はその産状から長距離を移動していないものの、異地性と考えられる。風化した露頭表面では化石本体は溶脱している。岩相から、小泉（1963）と北村ほか（1965）で報告された化石産地と同じく大久保層中部にあたると考えられる。

この露頭由来する転石から、*Chlamys* sp., *Acesta yagenensis*, *Nuttalia* sp. といった二枚貝、カサガイ目（腹足類）の一種、腕足類の *Coptothyris grayi* が得られた。これらのうち、*A. yagenensis* が特に多産し、小型から大型の個体まで得られ、合弁個体も産出した。新生代の *Acesta* 属は冷水の影響を受ける環境を中心に生息していたと考えられている（近藤・菊池, 2005）。小泉（1963）と北村ほか（1965）では *Chlamys arakawai* の産出を報告しているが、本研究では本種に確実に同定できる標本を得られなかった。*C. arakawai* は中新世の暖流系の動物群である門ノ沢動物群（鎮西, 1981）の構成種として知られる。本層の堆積時の環境については、今後さらなる標本の蓄積を待つ必要がある。

*福島県立博物館 **福島県立博物館友の会サークル

4. まとめ

大久保層から二枚貝化石3種, 腹足類化石1種, 腕足類化石1種を得た. この中で特に*Acesta yagenensis*が多産した.

謝辞

福島県立博物館の相田優専門員からは, 郡山地域の地質について情報をいただいた. 残念ながら本稿出版前に急逝された桑原功氏(探検隊元隊長)からは, 調査についてアドバイスをいただいた. ここに記して感謝する。

文献

- 鎮西清高, 1981: 門ノ沢動物群. 軟体動物群の研究 (大森昌衛教授還暦記念論文集), p.207-217.
- 北村信・鈴木敬治・小泉格・小林良昭・和久紀生・大山広喜・新妻信明・白田雅郎・小原繁夫, 1965: 福島県5万分の1地質図幅説明書「猪苗代湖東部地方」. 福島県, 66p.
- 小泉格, 1963: 福島県猪苗代湖南東部地域の新第三系. 地質学雑誌, 第69巻, p. 489-501.
- 近藤康生・菊池直樹, 2005: 新生代二枚貝オオハネガイ類の古生態学. 地学雑誌, 114号, p. 650-654.

Fossils from the Miocene Okubo Formation in Konanmachi area of Koriyama City, Fukushima Prefecture

Hiroaki INOSE*, The group of exploration for fossils and minerals in the club of Fukushima Museum**

Abstract. Fossils from the Okubo Formation (Middle Miocene) in Konan-machi, Koriyama City, Fukushima Prefecture, Japan are reported. The dominant species is *Acesta yagenensis* which implies influence of a cold water. Other species consists of *Chlamys* sp., *Nuttalia* sp., Nacellidae gen. et sp. indet and *Coptothyris grayi*.

Keywords: Miocene, Okubo Formation, bivalve

図版説明

図版 1.

大久保層から産出した化石. 1. *Chlamys* sp., FM-N202100168, a; 内型, b; 外型; 2. *Nuttalia* sp, FM-N202100170; 3. *Acesta yagenensis*, FM-N202100171, a; 外型, b; 内型; 4. Nacellidae gen. et sp. indet, FM-N202100181, a; 内型, b; 外型; 5. *Coptothyris grayi*, FM-N202100183, a; 内型, b; 外型. スケールバーは5 mm.

Fossils from the Okubo Formation, Konan-machi, Koriyama City, Fukushima Prefecture, Japan
Hiroaki Inose (Fukushima Museum) and the group of exploration for fossils and minerals in the club of Fukushima Museum

Explanation of plate

Plate 1.

Fossils from the Okubo Formation. 1. *Chlamys* sp., FM-N202100168, a; inner mold, b; outer mold; 2. *Nuttalia* sp, FM-N202100170; 3. *Acesta yagenensis*, FM-N202100171, a; outer mold, b; inner mold; 4. Nacellidae gen. et sp. indet, FM-N202100181, a; inner mold, b; outer mold; 5. *Coptothyris grayi*, FM-N202100183, a; inner mold, b; outer mold. The scale bar shows 5 mm.

*Fukushima Museum **Club of Fukushima Museum

